

2002年 大会記録

国際

◇ショープ女子国際大会（1月19～20日、フランス・トゥルコアン）

▼48kg級 清水美里（ジャパンビバレッジ）＝優勝、▼51kg級 服部担子（中京女大）＝優勝、▼55kg級 松川知華子（富山・富山一高）＝準々決勝敗退、▼63kg級 鈴木亜里（ジャパンビバレッジ）＝2位、▼67kg級 斉藤紀江（ジャパンビバレッジ）＝4位、▼72kg級 浜口京子（浜口ジム）＝優勝

◇デーブ・シュルツ国際大会（2月9～10日、米国コロラドスプリングス）

《男子フリースタイル》▼55kg級 清水聖志人（日体大）＝予選リーグ敗退、菅原剛志（日体大）＝予選リーグ敗退、▼60kg級 中橋裕樹（東洋大）＝予選リーグ敗退、▼66kg級 長島正彦（青山学院大）＝予選リーグ敗退、高橋龍太（拓大）＝7位、▼74kg級 長島和幸（早大）＝予選リーグ敗退、中筋祐太（日大）＝予選リーグ敗退、▼84kg級 仙波勝敏（立命館大）＝予選リーグ敗退、▼96kg級 田中章仁（専大）＝予選リーグ敗退

《男子グレコローマン》▼55kg級 村上文清（拓大）＝予選リーグ敗退、吉田久人（専大）＝4位、▼60kg級 工藤健太（青山学院大）＝予選リーグ敗退、村崎学志（拓大）＝4位、

《女子》▼48kg級 世良桃子（福岡大）＝優勝、

◇キエフ国際大会＝男子フリースタイル（2月20～22日、ウクライナ・キエフ）

▼55kg級 松永共広（日体大）＝9位、平井進吾（総合警備保障）＝4位、▼66kg級 金淵清文（国士大助手）＝14位、宮田和幸（クリナップ）＝11位、▼74kg級 小幡邦彦（山梨学院大）＝3位、▼97kg級 中尾芳広（エスピー・ネットワーク）＝8位

◇ディモクリティア国際大会＝男子グレコローマン（2月22～23日、ギリシア・コモテ

イニ）

▼55kg級 村田知也（滋賀・日野ク）＝優勝、▼60kg級 笹本睦（総合警備保障）＝優勝、▼66kg級 飯室雅規（自衛隊）＝2位、▼74kg級 永田克彦（新日本プロレス職）＝予選リーグ敗退、▼74kg級 菅太一（日大）＝予選リーグ敗退、▼84kg級 松本慎吾（一宮運輸）＝優勝

◇ハンガリー・グランプリ＝男子グレコローマン（3月2～3日、ハンガリー・ニレギ

ハザ）

▼55kg級 村田知也（滋賀・日野ク）＝12位、▼60kg級 笹本睦（総合警備保障）＝優勝、▼66kg級 飯室雅規（自衛隊）＝6位、▼74kg級 永田克彦（新日本プロレス職）＝23位、▼74kg級 菅太一（日大）＝7位、▼84kg級 松本慎吾（一宮運輸）＝17位、

◇ヤシャドク国際大会＝男子フリースタイル（3月2～3日、トルコ・アンカラ）

▼55kg級 松永共広（日体大）＝2位、▼60kg級 平井進悟（総合警備保障）＝決勝T1回戦敗退、▼66kg級 金淵清文（国士大助手）＝決勝T1回戦敗退、宮田和幸（クリナップ）＝2位、▼74kg級 小幡邦彦（山梨学院大）＝予選リーグ敗退、▼96kg級 中尾芳広（エス・ピー・ネットワーク）＝予選リーグ敗退

◇ヤリギン国際大会＝男子フリースタイル（3月8～10日、ロシア・クラスノヤルスク）

▼55kg級 松永共広（日体大）＝決勝T1回戦敗退、▼60kg級 平井進吾（総合警備保障）＝予選リーグ敗退、▼66kg級 金淵清文（国士大助手）＝予選リーグ敗退、宮田和幸（クリナップ）＝予選リーグ敗退、▼74kg級 小幡邦彦（山梨学院大）＝決勝T1回戦敗退、▼97kg級 中尾芳広（エスピー・ネットワーク）＝予選リーグ敗退、

◇ミロン・トロフィー国際大会＝男子グレコローマン（3月9～10日、イタリア・ファ

エンツァ）

▼55kg級 村田知也（滋賀・日野ク）＝3位、▼60kg級 笹本睦（総合警備保障）＝6位、▼66kg級 飯室雅規（自衛隊）＝予選リーグ敗退、▼74kg級 永田克彦（新日本プロレス職）＝棄権、▼74kg級 菅太一（日大）＝予選リーグ敗退、▼84kg級 松本慎吾（一宮運輸）＝2位

◇アジア・ジュニア選手権（6月19～21日、イラン・マシャド）

《男子フリースタイル》▼50kg級 下沢宇寛（東農大）＝5位、▼54kg級 清水聖志人（日体大）＝5位、▼58kg級 斎藤将士（日大）＝2位、▼63kg級 鈴木崇之（立命館大）＝5位、▼69kg級 萱森浩輝（日体大）＝7位、▼76kg級 高橋龍太（拓大）＝3位、▼85kg級 磯川孝生（大分・日大文理大付高）＝4位、▼97kg級 鳥羽信介（日大）＝5位、▼120kg級 杉浦一生（山梨学院大）＝4位

《男子グレコローマン》▼50kg級 長谷川恒平（静岡・焼津中央高）＝3位、▼54kg級 和田宗法（日体大）＝3位、▼58kg級 庄司優亮（拓大）＝8位、▼63kg級 船場建徳（南九州大）＝6位、▼69kg級 吉田毅（日体大）＝8位、▼76kg級 長友辰雄（日体大）＝7位、▼85kg級 下和田佳男（拓大）＝6位、▼97kg級 前島信彦（拓大）＝5位、▼120kg級

級 新庄寛和（国士大）＝6位

◇世界学生選手権（6月22～25日、カナダ・エドモントン）

《男子フリースタイル》▼55kg級 松永共広（日体大）＝優勝、▼60kg級 松尾大士（日体大）＝6位、▼66kg級 長島正彦（青山学院大）＝3位、▼74kg級 長島和幸（早大）＝6位、▼84kg級 仙波勝敏（立命館大）＝5位、▼96kg級 田中章人（専大）＝5位、▼120kg級 沢田直樹（拓大）＝5位

《男子グレコローマン》▼55kg級 村上文清（拓大）＝6位、▼60kg級 柳川育広（日体大）＝7位、▼66kg級 臼田育男（拓大）＝3位、▼74kg級 岩崎裕樹（日体大）＝7位、▼84kg級 田守竹夫（山梨学院大）＝4位、▼96kg級 加藤賢三（大東大）＝8位、▼120kg級 福田大樹（山梨学院大）＝6位

《女子》▼48kg級 野口美香（中京女大）＝優勝、▼51kg級 伊調千春（中京女大）＝優勝、▼55kg級 山本聖子（日大）＝優勝、▼59kg級 吉田沙保里（中京女大）＝優勝、▼63kg級 菅綾子（日大）＝6位、▼67kg級 ＝出場なし、▼72kg級 村島文子（中京女大）＝3位

◇カナダ・カップ（6月30日～7月1日、カナダ・カルガリー）

《男子フリースタイル》▼55kg級 松永共広（日体大）＝優勝、▼60kg級 松尾大士（日体大）＝優勝、▼66kg級 長島正彦（青山学院大）＝棄権、▼74kg級 長島和幸（早大）＝二棄、▼84kg級 仙波勝敏（立命館大）＝二棄、▼96kg級 田中章人（専大）＝2位、▼120kg級 沢田直樹（拓大）＝6位

《女子》▼48kg級 野口美香（中京女大）＝優勝、▼51kg級 伊調千春（中京女大）＝優勝、▼55kg級 吉田沙保里（中京女大）＝優勝、▼59kg級 山本聖子（日大）＝優勝、▼63kg級 菅綾子（日大）＝三失、▼67kg級 ＝出場なし、▼72kg級 村島文子（中京女大）＝5位

◇世界選手権＝男子フリースタイル（9月5～7日、イラン・テヘラン）

▼55kg級 田南部力（警視庁）＝6位、▼60kg級 太田亮介（警視庁）＝23位、▼66kg級 池松和彦（日体大助手）＝15位、▼74kg級 小幡邦彦（山梨学院大）＝24位、▼84kg級 仙波勝敏（立命館大）＝12位、▼96kg級 中尾芳広（エス・ピー・ネットワーク）＝22位、▼120kg級 田中章仁（専大）＝11位

◇世界選手権＝男子グレコローマン（9月20～22日、ロシア・モスクワ）

▼55kg級 村田知也(滋賀・日野ク) = 14位、▼60kg級 笹本睦(総合警備保障) = 10位、▼66kg級 飯室雅規(自衛隊) = 29位、▼74kg級 永田克彦(新日本プロレス職) = 18位、▼84kg級 松本慎吾(一宮運輸) = 20位、▼96kg級 森角裕介(新日本プロレス職) = 25位、▼120kg級 = 出場なし

◇アジア大会(10月2～8日、韓国・釜山)

《男子グレコローマン》▼55kg級 村田知也(滋賀・日野ク) = 7位、▼60kg級 笹本睦(総合警備保障) = 3位、▼66kg級 飯室雅規(自衛隊) = 7位、▼74kg級 永田克彦(新日本プロレス職) = 5位、▼84kg級 松本慎吾(一宮運輸) = 優勝、▼96kg級 森角裕介(新日本プロレス職) = 5位、▼120kg級 瀬川浩寿(警視庁) = 9位、

《男子フリースタイル》▼55kg級 田南部力(警視庁) = 2位、▼60kg級 太田亮介(警視庁) = 9位、▼66kg級 池松和彦(日体大助手) = 12位、▼74kg級 小幡邦彦(山梨学院大) = 7位、▼84kg級 仙波勝敏(立命館大) = 11位、▼96kg級 中尾芳広(エス・ピー・ネットワーク) = 8位、▼120kg級 田中章仁(専大) = 6位

《女子》▼48kg級 = 出場なし、▼55kg級 吉田沙保里(中京女大) = 優勝、▼63kg級 伊調馨(愛知・中京女大付高) = 2位、▼72kg級 浜口京子(浜口ジム) = 優勝

◇ワールドカップ=女子(10月19～20日、エジプト・カイロ)

優勝(6勝)

- 1回戦 日本○ [6-1] ●ウクライナ
- 2回戦 日本○ [7-0] ●エジプト
- 3回戦 日本○ [5-2] ●中国
- 4回戦 日本○ [7-0] ●チュニジア
- 5回戦 日本○ [5-2] ●ロシア
- 6回戦 日本○ [5-2] ●カナダ

《個人順位》▼48kg級 清水美里(ジャパンビバレッジ) = 優勝、▼51kg級 服部担子(中京女大) = 4位、▼55kg級 山本聖子(日大) = 優勝、▼59kg級 岩間怜那(中京女大) = 優勝、▼63kg級 伊調馨(愛知・中京女大附高) = 優勝、▼67kg級 斉藤紀江(ジャパンビバレッジ) = 5位、▼72kg級 浜口京子(浜口ジム) = 優勝

◇世界選手権=女子(11月2～3日、ギリシア・ハルキダ)

▼48kg級 野口美香(中京女大) = 14位、▼51kg級 伊調千春(中京女大) = 2位、▼55kg級 吉田沙保里(中京女大) = 優勝、▼59kg級 岩間怜那(リプレ) = 7位、▼63kg級 伊

調馨（愛知・中京女大付高）＝優勝、▼67kg級 齊藤紀江（ジャパンビバレッジ）＝7位、▼72kg級 浜口京子（浜口ジム）＝優勝

国内

◇全日本女子クラブ選手権（3月5日、愛知・中京女大体育館）

《順位》[1] 中京女大クラブA、[2] 中京女大クラブB、[3] 網野高クラブ、[4] 国士大クラブ

◇全国高校選抜大会（3月27～29日、新潟・新潟市体育館）

《学校対抗戦》[1] 静岡・沼津学園（初）、[2] 秋田・秋田商、[3] 鹿児島・鹿屋中央、岐阜・岐南工

《個人戦優勝者》▼50kg級 山口巨（京都・立命館宇治）、▼54kg級 湯元健一（和歌山・和歌山工）、▼58kg級 高塚紀行（茨城・霞ヶ浦）、▼63kg級 鈴木広明（鹿児島・鹿屋中央）、▼69kg級 秋本直樹（秋田・秋田経法大付）、▼76kg級 松本真也（京都・網野）、▼85kg級 磯川孝生（大分・日本文理大付）、▼130kg級 岩元章（鹿児島・鹿屋中央）

◇ジャパングイーンズカップ（4月7日、東京・駒沢体育館）

《優勝者》▼48kg級 野口美香（中京女大）、▼51kg級 伊調千春（中京女大）、▼55kg級 吉田沙保里（中京女大）、▼59kg級 岩間怜那（リプレ）、▼63kg級 伊調馨（愛知・中京女大附高）、▼67kg級 齊藤紀江（ジャパンビバレッジ）、▼72kg級 浜口京子（浜口ジム）

◇JOC杯ジュニアオリンピック（4月27～28日、神奈川・横浜文化体育館）

《男子ジュニア・フリースタイル優勝者》、▼50kg級 下沢宇寛（東農大）、▼54kg級 清水聖志人（日体大）、▼58kg級 斎藤将士（日大）、▼63kg級 鈴木崇之（立命館大）、▼69kg級 萱森浩輝（日体大）、▼76kg級 高橋龍太（拓大）、▼85kg級 磯川孝生（大分・日本文理大付高）、▼97kg級 田中章仁（専大）、▼120kg級 杉浦一生（山梨学院大）

《男子ジュニア・グレコローマン優勝者》▼50kg級 長谷川恒平（静岡・焼津中央高）、▼54kg級 和田宗法（日体大）、▼58kg級 庄司優亮（拓大）、▼63kg級 船場建徳（南九州大）、▼69kg級 吉田毅（日体大）、▼76kg級 長友辰雄（日体大）、▼85kg級 下和田佳男（拓大）、▼97kg級 前島信彦（拓大）、▼120kg級 新庄寛和（国士大）

《男子カデット・フリースタイル優勝者》▼42kg級 長江翔太（三重・久居高）、▼46kg級 安武誠（茨城・土浦日大高）、▼50kg級 大沢茂樹（茨城・霞ヶ浦高）、▼54kg級 富田和秀（鹿児島・鹿屋中央高）、▼58kg級 高塚紀行（茨城・霞ヶ浦高）、▼63kg級 岩井康輔（京都・網野高）、▼69kg級 宮本靖治（和歌山・南部高）、▼76kg級 工藤豪己（青森・光星学院高）、▼85kg級 山懸養一（神奈川・日大藤沢高）、▼100kg級 竹内勝信（茨城・霞ヶ浦高）

《男子カデット・グレコローマン優勝者》▼42kg級 滝口翔平（徳島・池田高）、▼46kg級 藤本浩樹（宮崎・宮崎日大高）、▼50kg級 村上卓也（愛媛・今治工高）、▼54kg級 安沢薫（神奈川・向上高）、▼58kg級 加納和彦（滋賀・日野高）、▼63kg級 竹本幸城（京都・立命館宇治高）、▼69kg級 神野伸二（愛媛・北条高）、▼76kg級 渡辺茂雅（愛媛・今治工高）、▼85kg級 万寛史（岩手・宮古商高）、▼100kg級 下中隆広（徳島・池田高）

《女子ジュニア優勝者》▼43kg級 竹中奈々（関大）、▼46kg級 世良桃子（福岡大）、▼50kg級 服部担子（中京女大）、▼54kg級 関根ゆう（大東大）、▼58kg級 吉田沙保里（中京女大）、▼63kg級 伊調馨（愛知・中京女大付高）、▼68kg級 塚本真紀（中京女大）、▼75kg級 村島文子（中京女大）

《女子カデット優勝者》▼38kg級 三村冬子（京都・網野中）、▼40kg級 中浜愛（鳥羽ジュニア）、▼43kg級 国枝美香（吹田レスリング）、▼46kg級 片渕有紀（栃木・足利工大付高）、▼49kg級 坂本真喜子（愛知・中京女大付高）、▼52kg級 渡部悠香（福島・荒海中）、▼56kg級 西牧未央（大阪・関大一中）、▼60kg級 宇野祥弥（三重・四日市四郷高）、▼65kg級 田中希枝（愛知・中京女大付高）、▼70kg級 新海真美（滋賀・日野高）

◇東日本学生リーグ戦（5月21～24日、東京・駒沢体育館）

《順位》[1] 拓大（初）、[2] 山梨学院大、[3] 日体大、[4] 日大、[5] 専大、[6] 大東大、[7] 国士大、[8] 中大、[9] 東洋大、[10] 群馬大、[11] 青山学院大、[12] 早大、[13] 東農大、[14] 法大、[15] 明大、[16] 国際武道大

◇西日本学生春季リーグ戦（6月1～2日、大阪・大阪府立体育会館）

《順位》[1] 立命館大（2季連続4度目）、[2] 徳山大、[3] 福岡大、[4] 同志社大、[5] 南九州大、[6] 桃山学院大、[7] 東亜大、[8] 天理大

◇全国中学生選手権（6月8～9日、茨城・茨城県スポーツセンター）

《男子優勝者》▼38kg級 小俣将太(山梨・上野原)、▼42kg級 田口敏生(大阪・北稜)、▼47kg級 小田裕之(三重・久居)、▼53kg級 岡本佑士(静岡・小川)、▼59kg級 紋谷哲平(群馬・太田西)、▼66kg級 森川一樹(大阪・豊津)、▼73kg級 松浦健之(愛媛・松山南二)、▼85kg級 小室直人(茨城・内原)、▼110kg級 荒木田進謙(青森・八戸東)

《女子優勝者》▼37kg級 野中千尋(静岡・門池)、▼40kg級 中浜愛(三重・鳥羽東)、▼44kg級 大山礼佳(秋田・勝平)、▼48kg級 馬越真弓(大阪・豊津西)、▼52kg級 渡部悠香(福島・荒海)、▼57kg級 西牧未央(大阪・関大一)、▼62kg級 鈴木博恵(京都・東宇治)

◇明治乳業杯全日本選抜選手権(6月12~14日、東京・代々木競技場第2体育館)

《男子フリースタイル優勝者》▼55kg級 田南部力(警視庁)、▼60kg級 太田亮介(警視庁)、▼66kg級 池松和彦(日体大助)、▼74kg級 小幡邦彦(山梨学院大)、▼84kg級 仙波勝敏(立命館大)、▼96kg級 中尾芳広(エス・ピー・ネットワーク)、▼120kg級 田中章仁(専大)

《男子グレコローマン優勝者》▼55kg級 安原隆(自衛隊)、▼60kg級 笹本睦(総合警備保障)、▼66kg級 飯室雅規(自衛隊)、▼74kg級 永田克彦(新日本プロレス職)、▼84kg級 松本慎吾(一宮運輸)、▼96kg級 加藤賢三(大東大)、▼120kg級 瀬川浩寿(警視庁)

◇東日本学生春季新人戦(6月13~14日、東京・駒沢体育館)

《男子フリースタイル優勝者》▼55kg級 足立孝司(山梨学院大)、▼60kg級 江上剛(山梨学院大)、▼66kg級 鈴木伸太郎(早大)、▼74kg級 中筋祐太(日大)、▼84kg級 中村友之(日大)、▼96kg級 米山祥嗣(日体大)、▼120kg級 杉浦一生(山梨学院大)

《男子グレコローマン優勝者》▼55kg級 奥野剛士(山梨学院大)、▼60kg級 福間道元(日体大)、▼66kg級 鍋久保雄太(日体大)、▼74kg級 山下雄也(拓大)、▼84kg級 松本拓輝(拓大)、▼96kg級 米山祥嗣(日体大)、▼120kg級 新庄寛和(国士大)

◇西日本学生選手権(7月5~7日、大阪・堺市金岡公園体育館)

《男子フリースタイル優勝者》▼55kg級 森山振一郎(福岡大)、▼60kg級 谷岡泰幸(徳山大)、▼66kg級 鈴木崇之(立命館大)、▼74kg級 吉真恒治(立命館大)、▼84kg級 佐藤秀一(立命館大)、▼96kg級 裾分隆仁(南九州大)、▼120kg級 平田善久(徳

山大)

《男子グレコローマン優勝者》▼55kg級 森山振一郎(福岡大)、▼60kg級 谷岡泰幸(徳山大)、▼66kg級 井上研一(日本文理大)、▼74kg級 池辺尚宏(福岡大)、▼84kg級 神野圭一(立命館大)、▼96kg級 吉田光志(福岡大)、▼120kg級 平田善久(徳山大)

◇全日本社会人選手権(7月13~14日、東京・駒沢体育館)

《団体戦優勝チーム》▼男子実業団 総合警備保障、▼同クラブ 倉敷ク、▼女子 J B ク

《男子フリースタイル優勝者》▼55kg級 高橋利典(総合警備保障)、▼60kg級 井上真一(警視庁)、▼66kg級 山本英典(自衛隊)、▼74kg級 本名栄仁(新潟・巻農高教)、▼84kg級 横山秀和(秋田市役所)、▼96kg級 小平清貴(警視庁)、▼120kg級 諏訪間幸平(クリナップ)

《男子グレコローマン優勝者》▼55kg級 吉田誠治(神奈川県協会)、▼60kg級 安原隆(自衛隊)、▼66kg級 笹本睦(総合警備保障)、▼74kg級 大井将憲(自衛隊)、▼84kg級 加納篤(岐阜・恵峰学園教)、▼96kg級 太田宣明(自衛隊)、▼120kg級 諏訪間幸平(クリナップ)

《女子優勝者》▼48kg級 吉村祥子(東京ビューティーセンター)、▼51kg級 清水美里(J Bクラブ)、▼55kg級 三田寺由香(代々木クラブ)、▼59kg級=出場なし、▼63kg級 本名亜里(J Bクラブ)、▼67kg級 斉藤紀江(J Bクラブ)、▼72kg級 八木淳子(会田ビル)

◇インターハイ(8月2~5日、茨城・霞ヶ浦文化体育会館)

《学校対抗戦》[1] 茨城・霞ヶ浦(2年ぶり15度目)、[2] 鹿児島・鹿屋中央、[3] 熊本・玉名工、秋田・秋田商

《個人戦優勝者》▼50kg級 長谷川恒平(静岡・焼津中央)、▼54kg級 湯元健一(和歌山・和歌山工)、▼58kg級 高塚紀行(茨城・霞ヶ浦)、▼63kg級 岩井康輔(京都・網野)、▼69kg級 神野伸二(愛媛・北条)、▼76kg級 松本真也(京都・網野)、▼85kg級 磯川孝生(大分・日本文理大付)、▼130kg級 秋山智史(静岡・沼津学園)

◇全国高校女子選手権(8月11日、岩手・宮古市民総合体育館)

《優勝者》▼40kg級 中村理奈（群馬・西邑楽）、▼43kg級 進藤恵（大阪・堺女）、▼46kg級 片渕有紀（栃木・足利工大付）、▼50kg級 坂本真喜子（愛知・中京女大付）、▼54kg級 松川知華子（富山・富山一）、▼58kg級 山名慧（愛知・中京女大付）、▼63kg級 伊調馨（愛知・中京女大付）、▼68kg級 渡辺あゆみ（静岡・三島北）、▼72kg級 新海真美（滋賀・日野）

◇全国中学女子選手権（8月11日、岩手・宮古市民総合体育館）

《優勝者》▼38kg級 野中千尋（静岡・門池）、▼40kg級 谷田愛実（静岡・裾野西）、▼43kg級 内田奈美（埼玉・新座二）、▼46kg級 鈴木幸子（栃木・雀宮）、▼49kg級 伊藤純子（三重・富洲原）、▼52kg級 渡辺悠香（福島・荒海）、▼56kg級 西牧未央（大阪・関大一）、▼60kg級 鈴木博恵（京都・東宇治）、▼65—70kg級 関川陽子（青森・六戸）

◇全国高校生グレコローマン選手権（8月17～19日、福岡・アクション福岡）

《優勝者》▼50kg級 長谷川恒平（静岡・焼津中央）、▼54kg級 武田佑基（愛媛・今治工）、▼58kg級 高塚紀行（茨城・霞ヶ浦）、▼63kg級 高橋弘樹（大分・日本文理大付）、▼69kg級 神野伸二（愛媛・北条）、▼76kg級 鶴巻宰（山形・米沢工）、▼85kg級 ジョーン・ガヤルド（宮城・仙台育英）、▼97kg級 小林義雄（長崎・島原工）、▼120kg級 丸山秀樹（熊本・玉名工）

◇全日本学生選手権（8月28～31日、大阪・堺市金岡公園体育館）

《男子フリースタイル優勝者》▼55kg級 松永共広（日体大）、▼60kg級 松尾大士（日体大）、▼66kg級 長島正彦（青学大）、▼74kg級 長島和幸（早大）、▼84kg級 小幡邦彦（山梨学院大）、▼96kg級 仙波勝敏（立命館大）、▼120kg級 田中章仁（専大）

《男子グレコローマン優勝者》▼55kg級 村上文清（拓大）、▼60kg級 柳川育広（日体大）、▼66kg級 白田育男（拓大）、▼74kg級 岩崎裕樹（日体大）、▼84kg級 高橋裕二郎（日体大）、▼96kg級 加藤賢三（大東大）、▼120kg級 沢田直樹（拓大）

《女子優勝者》▼48kg級 世良桃子（福岡大）、▼51kg級 赤坂幸子（福岡大） 《優勝者》▼55kg級 山本聖子（日大）、▼59kg級 吉田沙保里（中京女大）、▼63kg級 菅綾子（日大）、▼67kg級 菅原美々（国士舘大）、▼72kg級 村島文子（中京女大）

◇全日本学生王座決定戦（9月20日、東京・駒沢体育館）=決勝成績

日体大○ [5 - 2] ●専大

※日体大は3年連続23度目の優勝

◇全日本大学グレコローマン選手権 (10月17～18日、東京・駒沢体育館)

《優勝者》▼55kg級 村上文清 (拓大)、▼60kg級 工藤健太 (青山学院大)、▼66kg級 白田育男 (拓大)、▼74kg級 岩崎裕樹 (日体大)、▼84kg級 増田和広 (神奈川大)、▼96kg級 津田弘二 (青山学院大)、▼120kg級 沢田直樹 (拓大)

《大学対抗得点》[1] 拓大 (3年連続3度目)、[2] 日体大、[4] 青学大

◇国民体育大会 (10月27～30日、高知・宿毛高、宿毛工高)

《成年フリースタイル優勝者》▼54kg級 嶋村豊一 (熊本・田浦中教)、▼58kg級 松永共広 (静岡・日体大)、▼63kg級 谷和典 (茨城・日大)、▼69kg級 宮田和幸 (福島・クリナップ)、▼76kg級 小幡邦彦 (茨城・山梨学院大)、▼85kg級 横山秀和 (秋田・秋田商高教)、▼97kg級 小平清貴 (愛媛・警視庁)、▼130kg級 諏訪間幸平 (福島・クリナップ)

《成年グレコローマン優勝者》▼54kg級 村田知也 (滋賀・日野高)、▼58kg級 安原隆 (埼玉・自衛隊)、▼63kg級 柳川育広 (群馬・日体大)、▼69kg級 斉藤柔 (埼玉・自衛隊)、▼76kg級 加納篤 (岐阜・恵峰学園教)、▼85kg級 松本慎吾 (愛媛・一宮運輸)、▼97kg級 谷口周平 (埼玉・自衛隊)、▼130kg級 浜上稔 (宮崎・宮崎農高教)

《少年フリースタイル優勝者》▼50kg級 後藤賢一 (秋田・秋田商)、▼54kg級 冨田和秀 (鹿児島・鹿児島中央)、▼58kg級 高塚紀行 (茨城・霞ヶ浦)、▼63kg級 鈴木広明 (鹿児島・鹿屋中央)、▼69kg級 秋本直樹 (秋田・秋田経法大付)、▼76kg級 松本真也 (京都・網野)、▼85kg級 磯川孝生 (大分・日本文理大付)、▼97kg級 坂本憲蔵 (大分・日本文理大付)、▼130kg級 岩元章 (鹿児島・鹿屋中央)

《少年グレコローマン優勝者》▼50kg級 長谷川恒平 (静岡・焼津中央)、▼54kg級 武田佑基 (愛媛・今治工)、▼58kg級 久次米康裕 (徳島・穴吹)、▼63kg級 川向寛 (香川・多度津工)、▼69kg級 神野伸二 (愛媛・北条)、▼76kg級 鶴巻幸 (山形・米沢工)、▼85kg級 加藤慶一 (富山・高岡商)、▼97kg級 ジョーン・ガヤルド (宮城・仙台育英)、▼130kg級 丸山秀樹 (熊本・玉名工)

◇全日本大学選手権 (11月16～17日・静岡県東伊豆勤労者体育センター)

《優勝者》▼55kg級 松永共広 (日体大)、▼60kg級 谷和典 (日大)、▼66kg級 長島正彦 (青山学院大)、▼74kg級 長島和幸 (早大)、▼84kg級 小幡邦彦 (山梨学院大)、▼96kg級 加藤賢三 (大東大)、▼120kg級 沢田直樹 (拓大)

《大学対抗得点》[1] 山梨学院大（3年ぶり2回目）、[2] 日体大、[3] 日大

◇全国社会人オープン選手権（11月23～24日、東京・スポーツ会館）

《男子フリースタイル優勝者》▼55kg級 杉谷武志（自衛隊）、▼60kg級 上田将勝（リーデン）、▼66kg級 小原康司（自衛隊）、▼74kg級 木村享史（自衛隊）、▼84kg級 柴田寛（徳山大コーチ）、▼96kg級 吉田栄利（松坂クラブ）、▼120kg級 鴻巣晶俊（だっぺクラブ）

《男子グレコローマン優勝者》▼55kg級 佐々木昌常（航空基地熊谷）、▼60kg級 伊藤光（日体大OB）、▼66kg級 伊是名正旭（日体大OB）、▼74kg級 池田秀治（愛媛県協会）、▼84kg級 酒井紀富（国見町役場）、▼96kg級 ハンド・ボラッシュ（日体大ク）、▼120kg級 前川豪（AWC）

◇東日本学生秋季新人戦（11月29～30日、東京・駒沢体育館）

《男子フリースタイル優勝者》▼55kg級 齊藤将士（日大）、▼60kg級 福山鉄也（東洋大）、▼66kg級 マキシモ・ブランコ（日大）、▼74kg級 加藤陽輔（日体大）、▼84kg級 中筋祐太（日大）、▼96kg級 森山政秀（日体大）、▼120kg級 新庄寛和（国士大）

《男子グレコローマン優勝者》▼55kg級 齊藤将士（日大）、▼60kg級 庄司優亮（拓大）、▼66kg級 福間道元（日体大）、▼74kg級 吉田毅（日体大）、▼84kg級 下和田佳男（拓大）、▼96kg級 前島信彦（拓大）、▼120kg級 米山祥嗣（日体大）

◇西日本学生秋季リーグ戦（11月30日～12月1日、大阪・大阪府立体育会館）

《順位》[1] 立命館大（3季連続5回目）、[2] 福岡大、[3] 徳山大、[4] 同志社大、[5] 南九州大、[6] 桃山学院大、[7] 近大、[8] 東亜大

◇天皇杯全日本選手権（12月21～23日、東京・代々木競技場第2体育館）

《男子フリースタイル優勝者》▼55kg級 田南部力（警視庁）、▼60kg級 太田亮介（警視庁）、▼66kg級 宮田和幸（クリナップ）、▼74kg級 小幡邦彦（山梨学院大）、▼84kg級 横山秀和（秋田・秋田商高教）、▼96kg級 中尾芳広（エス・ピー・ネットワーク）、▼120kg級 田中章仁（専大）

《男子グレコローマン優勝者》▼55kg級 豊田雅俊（警視庁）、▼60kg級 笹本睦（総合警備保障）、▼66kg級 飯室雅規（自衛隊）、▼74kg級 永田克彦（新日プロレス職）、▼84kg級 松本慎吾（一宮運輸）、▼96kg級 加藤賢三（大東大）、▼120kg級 鈴木克

彰（警視庁）

《女子優勝者》▼48kg級 坂本真喜子（愛知・中京女大付高）、▼51kg級 伊調千春（中京女大）、▼55kg級 吉田沙保里（中京女大）、▼59kg級 岩間怜那（リブレ）、▼63kg級 伊調馨（愛知・中京女大付高）、▼67kg級 斉藤紀江（ジャパンビバレッジ）、▼72kg級 浜口京子（ジャパンビバレッジ）